



平成29年2月1日(水)



つつじが丘小学校
学校だより

つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市

挨拶を考える

副校長 宇治昭秀

1年生が、真剣な顔で私に尋ねました。「あいさつは、大切なもの？ どうして？」と。私は、咄嗟に良い言葉が見つからず「あいさつは人間関係の基本です」と答えてしまいました。その子は意味が分かるはずもなく、つぶらな瞳をキョトンとさせていました。反省することしきりです。

そこで、今回は挨拶について考えてみました。

何年前か前、親の墓参りを兼ねて近畿を旅した時のこと、立ち寄った小さな禅寺の方丈に「一挨拶（いちあい いっさつ）」と書かれた屏風がありました。霜降り身をまとった若い修行僧に質問したところ、とても丁寧に対応してくださいました。30分ほど正座のせいで、立ち上がるのに苦労したことを恥ずかしく思い出します。

僧の話によると「一挨拶」とは、宋代の禅の経典にある言葉で「一挨拶、其の深淺を見んと要す」が元になっているとのことでした。

また、この言葉が「挨拶」の語源になっていることも、教えていただきました。

僧は、更に続けて「挨拶とは深く攻め入ること、挨拶とは強く迫る・切り返すという意味があります。禅門の修行者は相手の力量を測るため、相手を尊敬する心で、ぎりぎりの攻防（問答）を行います。また、その先にしか、真に心を結ぶことはできません。小生も日々その心構えをもって生活しています。」と話してくださいました。

挨拶は人間同士の関わり合いの原点であるといわれます。

そのためには、刹那において、真に相手を尊重する心をもって、自分の思いを伝える挨拶が必要になってきます。

旅の思い出を振り返りながら、挨拶の深い意義、そして、自己の実践の甘さを改めて考えさせられました。

少し角度を変えて考えてみます。今、世界には6900種類もの言語が存在します。そして、すべての言語に共通するのは、挨拶のための言葉があるということです。例えば、日本語の「こんにちは」は、英語では「Hello」や「Good afternoon」、中国語では「你好」、フランス語では「Bonjour」、アボリジニの言葉では「Mate」等々です。

それぞれが単独の文化を形成する中で、すべての言語に挨拶の言葉が生まれた。とても不思議なことだと思いませんか。

それでは、なぜ人間は「挨拶」の言葉を必要としたのでしょうか。諸説ある中で、一番有力なのは、「無用な争いを避けるため」「互いが敵ではないことを確認するため」だと言われています。人間に野生が残っていた遠い昔、私たちの祖先は挨拶をすることで身を守り、安心を得ていたのではないかと考えられています。

挨拶をすると、何となく緊張がほぐれたり、気持ちよくなったりするのは、人のDNAに残された遠い記憶のためかもしれません。

私には、DNAの記憶は既に薄れ、「一挨拶」は手の届かぬ遠くの境地です。しかし、私にできることとして、子供たちに挨拶するときは、心の中で「大好きだよ」とつぶやくことにしています。「伝わっていますように。」

2月は「ふれあい月間」です。元気な挨拶が響く学校づくりを通して、子供たちが真に心を結び、安心して生活できる環境を整えてまいります。

ご家庭でのご協力を、お願いいたします。

「あいさつは

こころの とびら

ひらく かぎ」あきの ひでた

おはよう!

